

聴いてみよう! 眼の健康

放送時間 毎週第4金曜日 10:20～10:30 放送期間 2012年3月23日まで

7月22日放送分(第4回・はやり目) テキストバージョン

寺田: 海のように広く深い思いやり、慈しみの心をモットーに眼科診療に取り組まれている浜松市中区助信町の海谷眼科院長でいらっしゃいます海谷忠良先生をお迎えして、眼の健康について最新情報を伺います。海谷院長、こんにちは。よろしくお願いします。

海谷: こんにちは。

寺田: 本格的な夏がやってきましたね。この時期はご家族でプールに出かけるなど夏のレジャーを楽しむ方も多いと思いますが、今日はこの時期に起こりやすい目の病気についてお話を伺います。夏になりプールを楽しんでいる子供たちも多いと思いますが、プールでうつる目の病気があるそうですね、どのような病気ですか？

海谷: はやり目といわれる感染力の強いウイルス性の結膜炎があります。このウイルス性の結膜炎は3種類あって、はやり目といわれる流行性角結膜炎、プールでよくうつるのでプール熱といわれる咽頭結膜熱、急性の出血性結膜炎です。特にプール熱(咽頭結膜熱)は目だけでなく、咽頭炎やリンパ節の腫れ、発熱の症状が出てしまいます。やはり子どもさんの場合は特に心配ですね。

寺田: 症状としてはのどの痛みですとか熱も出るものがプール熱(咽頭結膜熱)なんですね。はやり目はどのような症状が出るのでしょうか。



パーソナリティーの寺田繭子さんと、海谷眼科海谷院長

海谷: 目の充血、目やに、角膜炎を起こします。この3つの結膜炎はアデノウイルスというウイルスが原因ですが、ウイルスの種類がそれぞれ違うのです。

はやり目(流行性結膜炎)とか急性結膜炎は目やに充血、特にプール熱(咽頭結膜熱)の場合は咽頭炎になり発熱がおきます。

寺田: 症状はそれぞれどれぐらいでおさまるのでしょうか。

海谷: はやり目(流行性角結膜炎)なら2週間、長引けば1ヶ月となかなか手ごわいです。

プール熱(咽頭結膜熱)では10日間から2週間ぐらいでウイルスの感染力は無くなり、急性結膜炎なら短期で1週間ぐらいで感染力が無くなっていきます。

寺田: やはり夏のシーズンが一番多いということですが、予防法について教えていただけますか？

海谷：人からもらわないということですね。接触して感染するのですが、ウイルス自体を殺菌する方法はなかなか無いので、よく手を洗うことが大切です。

病気にかかった人は、目をやたらにさわらないようにしなければいけません。もし目をさわったら手を洗うというのが人にうつさない方法です。この菌は非常に乾燥に強いんですよ。いろんなところにさわって、感染したところに他の人がさわれば菌がうつってしまいます。

寺田：感染力が強いんですね

海谷：強いです。乾燥に強いです。電車に乗ってつり革にさわってもうつる危険があります。ですから帰ったら手を洗うということが大事です。

寺田：手洗いは本当に年間を通してやらなくてはいけないことですね。

海谷：そうですよ。どこに菌があるかわかりませんからね。

寺田：特にお子さんが小さい方はその感染経路に気をつけないといけないですよ。

海谷：幼稚園や学校にいつてもらってくる場合がありますが、必ず自分の子がかかったら幼稚園も学校も休ませなければいけません。学校保健安全法でも決まっています。

寺田：では感染をしてしまった場合はどのように対処すればよいのでしょうか。

海谷：ウイルスそのものを退治する治療法はありません。炎症が強く充血してしまったら、抗炎症の治療をする（点眼薬）、まぶたが腫れたり、咽頭熱の場合は内服薬を使用するといった対処療法をします。それでウイルスの感染力がだんだん無くなるのを待ちます。

海谷：症状が軽くなっても感染力があるということに気をつけなければいけません。感染力が無くなったかどうかというのを医師に診断してもらうことが大切です。学校や幼稚園を休むという診断書をもったら、今度は登校、登園しても良いという証明書をもらわなければいけません。

そうしないと幼稚園、学校全体が感染してしまいます。病院の中では感染した患者様がさわった所を他の人がさわって、全体に感染が広がる危険もあります。院内感染が発生し病棟が閉鎖してしまうということもあるんですよ。過去にもそういう事例があります。一家全員が感染してしまったということもよくあることです。

寺田：そうですね。軽く考えてはいけないとあらためて思いました。人にうつさない、もらわないというのを徹底していただきたいと思います。

（これはラジオ放送の内容をテキストに書き出したものですが、一部修正を加えています。）